

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270100461		
法人名	有限会社ケアシェルパ		
事業所名	グループホームあたがわ(日棟)		
所在地	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本1423-107		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kami=true&jiyosyoCd=2270100461-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で、穏やかに生活していただいています。外出への支援を積極的に行ない、生活リハビリと心のケアを中心とした支援を日々行なっております。地域の行事にも積極的に参加をし、近隣の住民とも気さくな挨拶を交わせる自然な交流を築いています。他地区の事業所とも交流を深め、お互いの行事に参加したり招待したりしています。中学生にはホームのイベントに参加していただき、学校の行事には招待していただく関係を築いています。認知症サポートキャラバンの活動や認知症カフェを月に1度開催する事で、町の各担当者やボランティアの方々との繋がりを築き、住民の方の相談窓口の役割も果たしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県外法人での開設から「日々勉強」の姿勢を持ち続け、町内唯一の地域密着型事業所として地域に溶け込んでいます。回覧板が届きクリーン作戦に若い力を発揮するとのごく日常的な関わりから、町の運動会では盆踊りに興じ、学校行事に加わり、祭典では神輿が立ち寄ってくれます。近隣からはボランティアが集い、ギター演奏や懐かしのメロディが披露されクイズも交えて楽しいひと時が定期にあり、単発にはハーモニカやフラダンス、園芸指導の訪問もあります。事業所には普段から乳児を連れた気軽な訪問があり、納涼祭には老若男女のほかにも圏域内の介護保険施設の参画も見られ、9年の地道な積み重ねの成果が花開いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関・事務所に掲示し職員間で共有するよう努めている。 ご家族様へ月に1度お出しするお手紙(アルバム)にも運営理念を掲載する事で周知している。	体調をみながら“待つ、介護が浸透し、社訓「真心」をバックボーンとして「日々の暮らしにもっと自立を～」が実践されています。毎月家族に送付の「あたがわアルバム」に理念を印刷表明し続け、生活が映るその写真からは確実な反映を確認できました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月に1度の図書館でのイベントやふれあいきいきサロンへ参加し、地域の皆様と一緒に参加し交流している。 散歩や回覧板をとどけることで、近所の方と気軽に交流し話相手にお越しいただいている。	回覧板が届きクリーン作戦に若い力を発揮するべく日常的な関わりから、町の運動会では盆踊りに興じ、祭典では神輿が立ち寄ってくれます。近隣からはボランティアが集い、ギター演奏や懐かしのメロディが披露され、ほかにハーモニカやフラダンス、園芸指導の訪問もあります。	十分なことができていますが故に、今後はボランティアを活用するうえで身体介護をはじめとする専門性や責任の所在と、どこまで質を求めることかできるかへの探究を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内にて町の担当者と協力し認知症カフェを開催し、地域の方に理解いただいている。 キャラバンメイトの活動も有り、認知症についての理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様やお友達、町の担当者、民生委員、退去された利用者様のご家族にも断続して参加していただいている。 実際にあった地域からの苦情について報告を行ない、貴重な意見をいただきサービス向上に活かしている	介護福祉課2名、社会福祉協議会2名と心強いバックアップを受けることができ、「家族会及び地域とのふれあい会」という名称で隔月開催を続けています。事業所内のことに留まらず町の地域おこしにも及んでおり、今では図書館館長も参加意欲を示してくださっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター職員とは頻りに連絡を取り合い、運営推進会議には毎回出席いただいている。福祉避難所協定を結んでおり、デジタル防災行政無線機を設置している事で防災対策係との連携を図っている。賀茂健康福祉センター、社協との連絡も密にしている	「ボランティア要員としてどうか」との人材照会が地域包括支援センターからあったり、苦情の解決過程を報告することで運営の透明性につながるなど運営推進会議を通じて関係構築があります。賀茂健康福祉センターからは年間20件余もの催事案内が届き、家族にも紹介しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠せず、敷地内であれば自由に活動できるようにしている。外へ出て一緒に付添い行動を共にする支援を行っている。「身体拘束排除マニュアル」や「身体拘束ゼロの手引き」を職員は閲覧し身体拘束を行わないケアを徹底している。	現在身体拘束に係る心身状態の利用者はいませんが、「身体拘束ゼロへの手引き」をはじめとする関係資料閲覧によって職員教育が進められています。また常々乱暴な言葉を発したり誤解を受けることがないように口頭で注意していますが、週1回のミーティングも指導の場となっています	身体拘束排除及び類する研修会に職員が積極的に参加できる仕組みについて検討されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は「高齢者虐待防止マニュアル」を閲覧し法令や防止するための理解を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている利用者様が居る事で、職員も理解し関わっている。 成年後見制度も過去に利用者様が利用していた為理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は事前に説明を行っており、不安な事や疑問点は、理解され納得して頂けるよう十分に話し合っている。また、加算等が発生する際には、ご家族様へ説明し理解していただいた上で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・イベント・面会時等、普段よりご家族様と話し合える環境にある。 また、遠方のご家族様とは電話にて密に連絡を取り合えるように努めている。	頻度には差があつても7割程度の家族は月1回以上の面会があります。「開設当初はあったが、長いつきあいのなかで意見が挙がらなくなった」と連動するように「安心」が覗える記述がアンケートにはみられます。毎月届ける「あたがわアルバム」は「兄弟で分けたいので5部欲しい」という家族もいて、勤げれています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎週行ない、職員の意見や提案を聞き入れ迅速な判断をし、利用者様への対応に活かしている。	平日の午後にユニットごとにミーティングをおこなっていますが、「意見がいいにくい」という様子の職員はなく、自由闊達な展開があります。法人役員による個人面談も毎年あり、職員間でのトラブルや普段言いにくい意見が聴けるように計られています。	委員会活動や係といった役割を持つことで、職員の自主性がさらに増していくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算の申請により処遇の改善に努め、キャリアパスにより向上心をもっていただけるような職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、必要な研修費や職員の配置整備等の指示を責任者に出し、研修を行なっている環境整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェを開催する事で、他の事業者の利用者にも参加していただき、職員同士の交流がある。他の施設の納涼祭等イベントには積極的に参加し勉強させていただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行ない本人やご家族様の要望を伺い取り入れるように努めている。また、本人の困っている事や不安な事を聞き取り、より良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面会・訪問を行ない本人の日頃の生活状況を伺いご家族様が困っている事を確認しどのように過ごしていただきたいか要望を聞き入れ、内容をまとめた所定の用紙にて職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談・訪問で得た情報を把握し支援方法を相談している。 かかりつけ医については今までの主治医かホームの提携医師に切りかえるか説明したうえで判断していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの能力を把握し、日常の清掃、食事の準備・片付け等協力して行なってもらう事で良い関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各担当者が毎月お手紙にてご家族様へ近況報告を行なっている。また、イベントの際には一緒に参加していただけるよう呼び掛けている。 ご家族様との外出・外泊は自由にいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	図書館の利用や地域でのいきいきサロンへの参加、運動会の見学により交流が途切れないようにしている。 親くなった近所の方がいつでも自然に立ち寄り面会されお話し相手になっていただいている。	右の利用者が図書館を毎月1回訪ねては大きい字のコーナーや「料理の本はないか」と探し、またビデオやDVDを借りる人もいます。利用者が単独外出で営業店(寿司店)に迷い込んでしまうこともあります。事前に合意連携がとれていて暫らくは留まることもでき、不穏なく事なきを得ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士が話し易いテーブル席に配し、好きな歌と一緒に歌ったりし自然に利用者様同士が関わり合いながら生活されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族様の意向を確認し、許可が得られれば面会に行かせていただいている。 いつでも相談・支援に応じられるように記録類は保管している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時やソファ等でもリラックスされている時にコミュニケーションをとりながら希望や意向を伺っている。職員とケアマネージャーと情報の共有を行ない、新しい職員にはスムーズに一人ひとりの利用者様に適応出来るよう、チームで取り組んでいる。	職員から声をかけ、まだリラックスした状態を見計らい本心を掴めるよう努め、発語が困難な場合には生活歴を見直したり、家族からの話を参考にして意向を把握するようにしています。入浴、着替えといった生活動作においても本人の拒否に対して無理に推し進めず、一定条件の下で煙草も晩酌も継続してもらっています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはこれまでの生活歴等、ご本人様とご家族様や利用していた事業所の担当者様より伺い把握している。 ご本人様の気持ちを伺い大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケース記録には定時の記録をし、特変がある時にはその都度記録している。 業務日誌に排泄や食事・水分摂取量、バイタル、特変事項を記録し申し送りを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とケアマネージャーは常に意見交換をし、情報を共有している。 ご家族様の面会時を利用し現状を説明し要望等を伺っている。	ケアマネージャーが書き出した意向事項がカンファレンスで活躍しており、また目標とするカロリー量が具体的に記載され、本人の趣味に地域資源を活用している堅実なプランを視認しました。居宅管理指導の機会を有効に使っていたり、入退院の前後には専門医からの進言も参考にしています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は業務に入る前に業務日誌・夜間業務日誌・ケース記録に目を通し、情報を把握している。 ミーティングでは担当職員が中心となりその方に合ったケアを話し合い介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療・訪問看護の医療面の支援の他に、理髪店や町民運動会・いきいきサロン・認知症カフェへの参加等、様々なサービスの支援を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	床屋や図書館の利用や、いきいきサロン・図書館でのイベントには積極的に参加しています。 様々なボランティアの方々にお越しいただき、日常的な交流を楽しまれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に従来のかかりつけ医の継続がホーム提携のクリニックへの変更かをご家族様に伺い決めていただいている。 往診の際ドクターより専門医療機関への指示があれば、受診・通院の対応を主に職員が行なっている。	往診できる体制にあることを確認のうえで従来からの医療機関で受診することを奨励しています。受診は家族同行を原則として、事情があれば職員が支援していますが、土地柄、遠方への通院となることもあり、送迎が可能かどうか家族と都度協議しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の定期訪問時に、バイタルチェック・身体の様子を診ていただき、助言や指示をいただいている。 急な体調不良の際にも24時間対応していただき助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員の方とは常に情報交換できる関係が築けている。 入院時には速やかに情報が伝わるよう、フェイスシートを提出し説明を行なっている。 入院中も職員の面会や、ご家族様からの容態の報告により退院に向けての支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じ、主治医とご家族様、ホーム担当で話し合い方針を決めている。 ホームはターミナルケア計画書を作成し、ご家族様と終末期に向けての方針を共有している。 職員は訪問看護師よりターミナルケアについての研修も受けている。	先月お見送りをしたのはかりですが、今回で6例目となり職員も経験から落ち着いたケアができるようになっていきます。本年度は主治医、看護師、家族からも意見を仰ぎ、職員で話し合いを重ね「ターミナル計画書」を策定しており、延命治療などの医療方針についても事前に確認しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行えていないが、研修に参加し実践力を付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生に備え災害用伝言ダイヤルの練習や、食量・水を備蓄している。町の防災無線も設置している。 年に2回消防署員立ち会いのもと、避難訓練・通報訓練・消火訓練を行なっている。	訓練では消防者の助言に基づいての救出がおこなわれ、本年は消火備品を購入しています。防火管理者が用品や備蓄を毎月棚卸しており、ランタン・乾電池の停電対策も万全です。地域防災訓練にも出向き、また避難場所として登録されているため、発災時には地域協力も期待されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格に合わせた言葉掛けを行なう事で、親しみ易い環境作りを行なっている。 また、相談事があれば個室で話しができるようプライバシーに配慮している。	居室を間違えてしまうことを防ぐためフットライト導入したり、「化粧品の在庫がなくなった」との些細な訴えにも速やかに応え、居心地よく過ごせる工夫をおこなっています。また排泄の失敗では下着を厚手のものに替えたり、人知れず処理できるようにして羞恥心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・食事・外出・行事等、その都度ご本人様の意志を尊重し希望に沿った行動や生活が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日・食事の時間は決まっているが、普段は自由に生活していただいている。 外出や散歩を希望される利用者様へは、職員が付き添い気分転換を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣服が着れるよう衣替えを行なう。 ご自分で整容が出来ない利用者様への整容援助を実施している。 理髪店へ行ったり、ご家族様のカットによりその人らしい髪型が保たれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用したメニューや、麺・パン食も取り入れた食事作りをしている。 畑の野菜を利用者様と収穫し、一緒に準備をする事でやりがいを感じていただいております。できる範囲で食事の準備・片付けをしていただく環境作りを行なっています。	鶏を捌くといった特別イベント時にはありませんが、通常はユニットごとに利用者さんと相談しながら、また敷地内で採れたニンジン、ナス、キュウリ等季節の食材を取り入れてメニューを決定しています。利用者の会話がスムーズになるようにムードメーカーとなり、職員も食卓を囲んでいます	メニュー記録を週単位で振り返り、専門的視点から栄養バランスが必要量摂取されているか検証していくことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉・魚・野菜・茶物を日々使い切り食事を提供している。摂取量が確保出来ない時は、嗜好品を代替とし提供し栄養バランスの確保に努めている。食事・水分摂取量はその都度記録している。 刻み・ミキサー・ペースト食等、利用者様の状態に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に歯磨き・嗽・マウスウォッシュで一人ひとりの口腔状態に合わせたケアを実施している。 就寝時に義歯を回収し洗浄液に浸ける。 本人が出来ないところを援助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。 自らトイレの利用が困難な方には時間によるトイレ誘導・パット確認を行なっている。 居室にてポータブルトイレを使用される利用者様もいる。	夜間は安眠を優先してオムツを着用することもあります。日中はできるだけトイレで排泄できることを目指しています。一方、夜間1回だけトイレ誘導をおこなうことで、オムツを着用しないで済むことも実現していて、画一的でない対応がみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の情報共有に努めている。日々の食事に、ヨーグルトやセンナ茶、及び雑穀米を召し上がっていただく。 滞った際は下剤の使用もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、希望の順番や時間を伺うようにしている。シャワー浴の希望や温度設定も一人ひとりの希望に合わせ支援している。 リラクセスしていただけるよう、入浴剤を使用したり柚子を浮かべる等季節風呂の工夫をしている。	2日に1回とじていますが、希望で毎日の入もいます。重度となった折には職員2名で介助し安全第一としています。浴槽が広く、浴室内にもゆとりがあり介助しやすく、仲の良い同士が連れ添って入浴することもできます。5Sが敷かれ、更衣室もすっきりとしていて、キャリーもありシャワーチェアへの移乗も楽にできます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めていないので自由に休んでいただいている。季節に合わせた寝具の用意をし、温度・湿度の調整を行なっている。週に1回以上のシーツ交換を行ない、布団の天日干し・布団乾燥機の使用で衛生管理にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬表をファイルし職員は閲覧出来るようにしている。 薬の変更や症状の変化については、週1回のミーティングにより周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食事の準備・片付け等、自然に役割りができている。職員と習字をしたり、皆で一緒にケーキ作りをする等して気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的な買い物や図書館への外出に向行していただいている。好天の日には近所を散歩したり、日光浴を促している。ご家族様との外出は気兼ねなくしていただけるよう支援している。 また、敷地内の畑にて収穫を職員と共に行なっている。	買い物では店員さんに送り届けもらえることで、業務日誌にも外出が記載され「付き添う介護」で制約しない生活が叶っています。イチゴ狩り、花見を慣例行事とし、車椅子となっても大勢での外出ができるよう検討しています。動物園ではホワイトタイガーに呼びかけたりと、微笑ましい姿も確認できています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	私物を購入する際に職員が買い物へ同行する時もあります。 本人が外出出来ない場合は希望を伺い職員が購入し、後で精算を行なっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちで、ご家族様とやり取りされている利用者様もおります。 希望されれば事務所の電話を使用させていただいている。 便箋・封筒・年賀状を用意し、手紙のやり取りができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた飾り付けをし、イベントの写真や利用者様の作品(書道・塗り絵)を掲示している。トイレには分かり易く張り紙をし、使用中の札も設置している。エアコン・加湿器・遮光カーテンを用い、居心地良く過ごせるようにしている。	ソファーには職員も隣に腰掛け、家庭らしい振る舞いに温かみを感じられました。笑顔いっぱいの行事写真が飾られ、屋外には手入れの行き届いた家庭菜園があります。隣地は藪から駐車場へと変わり、広く見通せることから共用空間も前回訪問より明るくなりました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が思い思いの場所で過ごせるような様々な場所にソファや椅子を設置しています。(玄関や外にも)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れた家具や寝具を用意していただいている。居室にテレビを用意されている方や、携帯電話でご家族様とお話する事で穏やかに過ごされている。 壁にはご家族様の写真やニュース記事が飾り付けられています。	掃除係、モップ係と利用者が係りを分担し、相互に部屋を掃除することが慣行されています。お気に入りの小物やぬいぐるみが傍らに置かれ、穏やかに生活している様子が覗える居室ですが、自分の部屋が分からなくなって迷うこともあり、職員が丁寧に案内していました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には写真付の表札を掲げています。 夜間用にポータブルトイレを使用される方には、常夜灯をコンセントに点け利用しやすくしています。 トイレ横に椅子を準備し排泄後に休めるようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270100461		
法人名	有限会社ケアシェルパ		
事業所名	グループホームあたがわ(A棟)		
所在地	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本1423-107		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で、穏やかに生活していただいています。外出への支援を積極的に行ない、生活リハビリと心のケアを中心とした支援を日々行なっております。地域の行事にも積極的に参加をし、近隣の住民とも気さくな挨拶を交わせる自然な交流を築いています。他地区の事業所とも交流を深め、お互いの行事に参加したり招待したりしています。中学生にはホームのイベントに参加していただき、学校の行事には招待していただく関係を築いています。認知症サポートキャラバンの活動や認知症カフェを月に1度開催する事で、町の各担当者やボランティアの方々との繋がりを築き、住民の方の相談窓口の役割も果たしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県外法人での開設から「日々勉強」の姿勢を持ち続け、町内唯一の地域密着型事業所として地域に溶け込んでいます。回覧板が届きクリーン作戦に若い力を発揮するとのごく日常的な関わりから、町の運動会では盆踊りに興じ、学校行事に加わり、祭典では神輿が立ち寄ってくれます。近隣からはボランティアが集い、ギター演奏や懐かしのメロディが披露されクイズも交えて楽しいひと時が定期にあり、単発にはハーモニカやフラダンス、園芸指導の訪問もあります。事業所には普段から乳児を連れた気軽な訪問があり、納涼祭には老若男女のほかにも圏域内の介護保険施設の参画も見られ、9年の地道な積み重ねの成果が花開いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関・事務所に掲示し職員間で共有するよう努めている。 ご家族様へ月に1度お出しするお手紙(アルバム)にも運営理念を掲載する事で周知している。	体調をみながら“待つ、介護が浸透し、社訓「真心」をバックボーンとして「日々の暮らしにもっと自立を～」が実践されています。毎月家族に送付の「あたがわアルバム」に理念を印刷表明し続け、生活が映るその写真からは確実な反映を確認できました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月に1度の図書館でのイベントやふれあいきいきサロンへ参加し、地域の皆様と一緒に参加し交流している。 散歩や回覧板をとどけることで、近所の方と気軽に交流し話相手にお越しいただいている。	回覧板が届きクリーン作戦に若い力を発揮するべく日常的な関わりから、町の運動会では盆踊りに興じ、祭典では神輿が立ち寄ってくれます。近隣からはボランティアが集い、ギター演奏や懐かしのメロディが披露され、ほかにハーモニカやフラダンス、園芸指導の訪問もあります。	十分なことができていますが故に、今後はボランティアを活用するうえで身体介護をはじめとする専門性や責任の所在と、どこまで質を求めることかできるかへの探究を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内にて町の担当者と協力し認知症カフェを開催し、地域の方に理解いただいている。 キャラバンメイトの活動も有り、認知症についての理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様やお友達、町の担当者、民生委員、退去された利用者様のご家族にも断続して参加していただいている。 実際にあった地域からの苦情について報告を行ない、貴重な意見をいただきサービス向上に活かしている。	介護福祉課2名、社会福祉協議会2名と心強いバックアップを受けることができ、「家族会及び地域とのふれあい会」という名称で隔月開催を続けています。事業所内のことに留まらず町の地域おこしにも及んでおり、今では図書館館長も参加意欲を示してくださっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター職員とは頻りに連絡を取り合い、運営推進会議には毎回出席いただいている。福祉避難所協定を結んでおり、デジタル防災行政無線機を設置している事で防災対策係との連携を図っている。賀茂健康福祉センター、社協との連絡も密にしている。	「ボランティア要員としてどうか」との人材照会が地域包括支援センターからあったり、苦情の解決過程を報告することで運営の透明性につながるなど運営推進会議を通じて関係構築があります。賀茂健康福祉センターからは年間20件余もの催事案内が届き、家族にも紹介しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠せず、敷地内であれば自由に活動できるようにしている。外へ出て一緒に付添い行動を共にする支援を行っている。「身体拘束排除マニュアル」や「身体拘束ゼロの手引き」を職員は閲覧し身体拘束を行わないケアを徹底している。	現在身体拘束に係る心身状態の利用者はいませんが、「身体拘束ゼロへの手引き」をはじめとする関係資料閲覧によって職員教育が進められています。また常々乱暴な言葉を発したり誤解を受けることがないように口頭で注意していますが、週1回のミーティングも指導の場となっています。	身体拘束排除及び類する研修会に職員が積極的に参加できる仕組みについて検討されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は「高齢者虐待防止マニュアル」を閲覧し法令や防止するための理解を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている利用者様が居る事で、職員も理解し関わっている。 成年後見制度も過去に利用者様が利用していた為理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は事前に説明を行っており、不安な事や疑問点は、理解され納得して頂けるよう十分に話し合っている。また、加算等が発生する際には、ご家族様へ説明し理解していただいた上で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・イベント・面会時等、普段よりご家族様と話し合える環境にある。 また、遠方のご家族様とは電話にて密に連絡を取り合えるように努めている。	頻度には差があつても7割程度の家族は月1回以上の面会があります。「開設当初はあったが、長いつきあいのなかで意見が挙がらなくなった」と連動するように「安心」が覗える記述がアンケートにはみられます。毎月届ける「あたがわアルバム」は「兄弟で分けたいので5部欲しい」という家族もいて、勤げれています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎週行ない、職員の意見や提案を聞き入れ迅速な判断をし、利用者様への対応に活かしている。	平日の午後にユニットごとにミーティングをおこなっていますが、「意見がいいにくい」という様子の職員はなく、自由闊達な展開があります。法人役員による個人面談も毎年あり、職員間でのトラブルや普段言いにくい意見が聴けるように計っています。	委員会活動や係といった役割を持つことで、職員の自主性がさらに増していくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算の申請により処遇の改善に努め、キャリアパスにより向上心をもっていただけるような職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、必要な研修費や職員の配置整備等の指示を責任者に出し、研修を行なっている環境整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェを開催する事で、他の事業者の利用者にも参加していただき、職員同士の交流がある。他の施設の納涼祭等イベントには積極的に参加し勉強させていただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人やご家族様と面談を行ない、要望を伺うようになっている。 入居後も新たな要望があれば取り入れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様より生活歴を伺い、困っている事や不安な事を確認し要望を聞き入れている。 フェイスシートにて職員間で情報を共有し、入居後にご本人様が不安なく快適に過ごせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で得た情報を把握し職員間で支援方法を相談している。 かかりつけ医については、今までの主治医かホーム提携の医師に移行するかを説明したうえで判断していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け、食器洗い・掃除・洗濯物干しや畳み等、利用者様と一緒にしない関わり合う事で利用者様と職員がより良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者による手紙で近況報告を行ない、運営推進会議やイベントの参加を呼び掛けている。 往診には必要に応じてご家族様にも立ち会っていただき支援方法を相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	図書館の利用や、いきいきサロンへ参加したり、買物に出掛ける事で馴染みの人と交流がもてるようにしている。 手紙・年賀状、電話でも交流がもてるよう支援し関係が途切れないようにしている。	5名の利用者が図書館を毎月1回訪ねては大きい字のコーナーや「料理の本はないか」と探し、またビデオやDVDを借りる人もいます。利用者が単独外出で営業店(寿司店)に迷い込んでしまうこともあります。事前に合意連携がとれていて暫らくは留まることもでき、不穏なく事なきを得ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で話し易いようテーブルの席を配慮したり、隣の棟にも行き来し広く利用者様同士で関わり合えるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も面会に行き様子をうかがわせていただいている。 いつでも相談や支援に応じられるよう記録類は保管している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションをとり、希望や意向を伺っている。 意思疎通が困難な方には、ミーティングで課題を挙げ成功例等を出し合い介助の方法を検討している。	職員から声をかけ、まだリラックスした状態を見計らい本心を掴めるよう努め、発語が困難な場合には生活歴を見直したり、家族からの話を参考にして意向を把握するようにしています。入浴、着替えといった生活動作においても本人の拒否に対して無理に推し進めず、一定条件の下で煙草も晩酌も継続してもらっています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様とご本人様より生活歴を伺い意向に添うよう努めている。 利用していた事業所の担当者さまからも話しを伺い、経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌にはバイタル、食事・水分摂取量、排泄を記録し特変があれば特記事項に記入し申し送りを行なっている。 個人ケース記録には定時に記録し特変があればその都度記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーと職員でミーティングにて話し合いを行なっている。 ご家族様には面会の際に現状をお伝えし、要望を伺い介護計画を作成している。	ケアマネージャーが書き出した意向事項がカンファレンスで活躍しており、また目標とするカロリー量が具体的に記載され、本人の趣味に地域資源を活用している堅実なプランを視認しました。居宅管理指導の機会を有効に使っていたり、入退院の前後には専門医からの進言も参考にしています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・夜間業務日誌はその日の様子が分かるよう記入し、職員は入社時先ず目を通すようにしている。 個人ケース記録には詳細を記入し、それらをふまえ話し合い介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療・訪問看護以外に通院が必要となり、ご家族様の都合がつかない場合には、職員で対応している。 また、図書館・床屋・買物等の外出支援を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いきいきサロンや認知症カフェ等の地域の催しに参加し、地域住民の方と交流し活気ある生活を送っていただいている。 中学校の音楽発表会に招待されたり、図書館等の町の施設も利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までの主治医を継続するか、ホーム提携の医師による往診にするか決めていただいている。 往診で専門医療機関への受診が必要となった際は、ご家族様と相談し受診出来るよう支援している。	往診できる体制にあることを確認のうえで従来からの医療機関で受診することを奨励しています。受診は家族同行を原則として、事情があれば職員が支援していますが、土地柄、遠方への通院となることもあり、送迎が可能かどうか家族と都度協議しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回訪問看護師の定期訪問があり、診ていただいている。 24時間対応しているので、急な体調不良の方が出た際も指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には速やかに情報を提供している。面会も行ない、ご家族様と連絡を取り合い現状を把握している。 病院相談員とカンファレンスにて、早期退院に向けて支援を行なっている。 緊急時のフェイスシートを作成している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについての方針を説明している。 健康状態の悪化により容態が重度化した際には、改めてターミナルケアについての話し合いを行ない、ご家族様の意向を確認し医師を交え今後の方針を決めている。	先月お見送りをしたばかりですが、今回で6例目となり職員も経験から落ち着いたケアができるようになっていきます。本年度は主治医、看護師、家族からも意見を仰ぎ、職員で話し合いを重ね「ターミナル計画書」を策定しており、延命治療などの医療方針についても事前に確認しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	町の研修に参加し災害時の対応や応急手当の方法を学び実践力を付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員に立ち会っていただき、昼・夜間や火災・地震等を想定した避難訓練を年に2回実施している。消火訓練・通報訓練を行ない、消防署員に指導・助言を受けている。 防災用品や3日分の食料・水を備蓄している。	訓練では消防署の助言に基づいての救出がおこなわれ、本年は消火備品を購入しています。防火管理者が用品や備蓄を毎月棚卸しており、ランタン・乾電池の停電対策も万全です。地域防災訓練にも出向き、また避難場所として登録されているため、発災時には地域協力も期待されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格に合わせ声掛けを行なっている。 時には親しみ易く地域の方言を交えて会話をしている。 目の見えない方には安心していただけるよう一つひとつの動作に声掛けを行なっている。	居室を間違えてしまうことを防ぐためフットライト導入したり、「化粧品の在庫がなくなった」との些細な訴えにも速やかに応え、居心地よく過ごせる工夫をおこなえています。また排泄の失敗では下着を厚手のものに替えたり、人知れず処理できるようにして羞恥心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送るうえで常に声掛けをし、本人の意思を確認し要望に応えるようにしている。 意思表示が難しい方は、日頃の行動を読み取り意思を考慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決まっているが、ご馳走様後でもゆっくり召し上がっていただいている。 入浴日も決まっているが、希望する順番で入浴していただいている。 それぞれ居室やフロアで過ごされたり、散歩に出たりと自由に生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に衣類の洗濯を行ない清潔な衣類へ着がえている。 散髪は床屋へ行ったり、理容師に来ていただいたり、職員がカットをしている。 アクセサリーや髪留めでお洒落を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせたメニューを考えている。 畑の野菜や果物の収穫を利用者様と一緒にしない楽しみながら、調理・食事をしていきます。 食後は、下膳・食器洗い・テーブル拭き・お盆拭きを手伝っていただいている。	鯛を捌くといった特別イベント時にはありませんが、通常はユニットごとに利用者と相談しながら、また敷地内で採れたニンジン、ナス、キュウリ等季節の食材を取り入れてメニューを決定しています。利用者の会話がスムーズになるようにムードメーカーとなり、職員も食卓を囲んでいます。	メニュー記録を週単位で振り返り、専門的視点から栄養バランスが必要量摂取されているか検証していくことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の進みが悪い方には、その方の好きな食べ物を出し食事を摂っていただいている。 刻み食や、水分にはトロミをつけたり一人ひとりの状態に合わせて工夫している。 食事・水分量は業務日誌に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行える方には声掛けをし口腔ケアを行なっていたり、介助が必要な方には歯磨き・嗽の状態に合わせて援助している。 就寝前には洗浄剤を使い義歯を洗浄している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	業務日誌に排泄のあつた時間を記録し一人ひとりの排泄パターンを把握するようにしている。 自らトイレに行かれない方は、時間でトイレ誘導を行なっている。 ポータブルトイレを使用する事で自力で排泄出来る方もいる。	夜間は安眠を優先してオムツを着用することもあります。日中はできるだけトイレで排泄できることを目指しています。一方、夜間1回だけトイレ誘導をおこなうことで、オムツを着用しないで済むことも実現していて、画一的でない対応がみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、ヨーグルト・雑穀米・オリゴ糖を毎日摂取していただき腸内環境を整えている。 便秘気味の方にはセンナ茶を飲んでいただき、それでも排便が無い場合は訪問看護師に相談し指示をいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、希望する順番や時間を伺うようにしている。シャワー浴のみを希望される方等一人ひとりに合わせた支援をしている。 リラックスしていただけるよう、入浴剤を入れたり、ボディークリームを使用していただいている。	2日に1回としていますが、希望で毎日の入もいます。重度となった折には職員2名で介助し安全第一としています。浴槽が広く、浴室にもゆとりがあり介助しやすく、仲の良い同士が連れ添って入浴することもできます。5Sが敷かれ、更衣室もすっきりとしていて、キャリーもありシャワーチェアへの移乗も楽にできます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲れや眠気がみられたら休んでもいただけるよう支援している。就寝時間は決まっていないので、読書やテレビ観賞等、自由に過ごしていただけてから就寝していただいている。エアコンで温度を調整し、リネンは週に1回交換を行ない、好天の日には布団を干し快眠をうながしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員が薬を管理し、担当職員でなくてもファイルで確認出来るようにしている。 薬の変更時には、日誌に記入し申し送りを行なっている。 薬の変更後の言動の変化は詳細に記録を残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月企画するイベントで楽しんでいただいている。 利用者様のピアノ演奏で誕生日会やクリスマス会を盛り上げていただいている。 日頃から利用者様に家事を手伝っていただいているので、自然に役割りができている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段から散歩に出掛け、図書館・買物・床屋に行ける支援をし、地域のイベントにも参加するようにしている。 外出のイベントには、普段行けない場所を選び企画している。	買い物では店員さんに送り届けもらえるほどで、業務日誌にも外出が記載され「付き添う介護」で制約しない生活が叶っています。イチゴ狩り、花見を慣例行事とし、車椅子となっても大勢での外出ができるよう検討しています。動物園ではホワイトタイガーに呼びかけたりと、微笑ましい姿も確認できています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な品がある際にはホームの買物に同行していただき購入している。 同行出来ない場合は希望を伺い職員が購入し後で精算をしている。 少額をご自身で管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用されたい時は事務所を通じて掛けたり取りついでいる。 手紙のやり取りが出来るように、便箋・封筒・年賀状を用意している。 利用者様の手紙は職員がその都度投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアはエアコンで快適な温度調節を行ない、日が照り付ける時はカーテンを閉め光の調節を行なっている。 季節の花を活けたり、飾り付けを行なっている。 トイレには、使用中と分かる札を掛けている。	A棟では手入れされた綺麗な水槽で金魚が泳ぎ、明るい採光の広い空間が印象的です。笑顔いっぱい行事写真、書道の作品や季節ごとの創作物が展示され、照明は心安らぐ暖色系でほんのりとした気持ちになります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が思い思いの場所で過ごせるような様々な場所に椅子を配置し、外でも過ごせるようベンチを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れた家具や寝具を用意していただき、混乱を抑えるよう家具の配置をご家族様と相談し決めている。	表札にはあしらった毛糸が判別しやすい効果を生んでいます。カーペットを敷き鏡台を置いたり、電子ピアノを持ち込んで演奏も気ままにおこなえています。生花が好きだった利用者には、本人が意志を表出できなくなってからも花を飾る職員の心配りがあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下・トイレ・浴室には手摺りが設置されている。 居室には表札を掲げ、目の見えない方の居室には鈴を付け認識出来るよう工夫している。		